

ガウソ



2026年9月12日(土)ろうきょうセミナー

Introduce

自己紹介

しんや けんた

新谷 健太(33)

1991年 北海道出身

2015年 金沢美術工芸大学油画専攻卒

2017年 珠洲市に一軒家移住

仮()-karikakko-始動

2018年 ゲストハウス開業

2019年 飲食店開業

2020年 一般社団法人設立

アートを活用した地域コミュニティのケアと
プロジェクトマネジメント

2021年 コロナ禍での地域づくり

2022年 地震。飲食店閉業。NPO法人ガクソー始動

2023年 銭湯「海浜あみだ湯」の承継に取り組む

2024年 能登半島地震

2026年 海浜あみだ湯労働者協同組合 設立





ガクソー

NPO法人ガクソー

NPO法人ガクソーとは

①奥能登に住む子どもたちに対して、教育に関する事業を行い、地域の教育格差を無くし街の未来に寄与します。

②地域の人々に対し、まちづくりの推進を図り、すべての人々が健やかに暮らせる地域づくりに寄与します。



考えること、伝えること。



自分を受け容れられる居場所で
本気になれる趣味や学びの発見、本や人との出会い。
一緒に思い出を作ろう。

ガクソーの主な3つの事業

教育

- ワークショップ
- 寺子屋美術部
- デザイン研究会
- 学習塾
- トークイベント
- 読書会

メディア

- 文芸誌
- PodCast
- YouTube
- オウンドメディア

まちづくり

- 音楽イベント
- 観光振興
- 事業継承
- なんでも屋

ラジオ収録スタジオ



大人達の趣味の部室として



5. お湯や水は大切に使いましょう。



2021年頃 あみだ湯の事業承継の相談

事業承継の課題

- ①赤字経営
- ②親族間の意見の相違
- ③オーナーの認知症
- ④大きな銭湯
- ⑤土地が借地



それでも地域に銭湯は必要



令和 6 年能登半島地震



ゲストハウス
「津波の浸水」



メンバー自宅
「ほぼ全壊」



ガクソー
「全壊」

あみだ湯だけは
無事だった。





海浜
あ
お
だ
湯

since 1988

Suzu city



【海浜あみだ湯】

2024年1月19日 営業再開
MAX620人 平均450人。

2025年250人平均
2026年110人平均

【ボランティア受入】

〈豪雨以後〉
延べ704人/ユニーク85人
〈豪雨以前〉
延べ456人/ユニーク115人

ガクソー@海浜あみだ湯

全壊判定となり公費解体されたガクソーの拠点を海浜あみだ湯の一部を利用し居場所として提供している。
高校生があみだ湯の運営にボランティアで参加したり、学習場所、進学サポートをおこなってきた。





進路や部活の相談など

住まいを失った移住者達の





【ギャラリー】

民間ボランティアセンター



参画

など

物資/イベントの拠点

数少ない滞在の拠点として





コミュニティを繋ぐ

震災の混乱期を駆け抜け



湯

2026 年 1 月 1 日
事業承継完遂

あみだ湯

労働者協同組合



海浜あみだ湯労働者協同組合

【組合員12名とその特徴】

・ 30代~40代の移住者中心
それぞれが「デザイン事務所」「自伐型林業」「宿泊施設」「現代アーティスト」「移住促進会社」「米農家」などの生業を持つ。
それぞれがその生業を通じて「銭湯」の機能にアクセスし、あみだ湯を残すために働く。

【資本金と事業承継の工夫】

・ 資本金800万円
→震災後の事業収益800万を親族と折半する形で落ち着く
→800万円を組合員11名に贈与税のかからない金額で分配。
→組合に再集結し、400万円を親族へ
→親族の1人が組合員になってもらい、責任を共有。

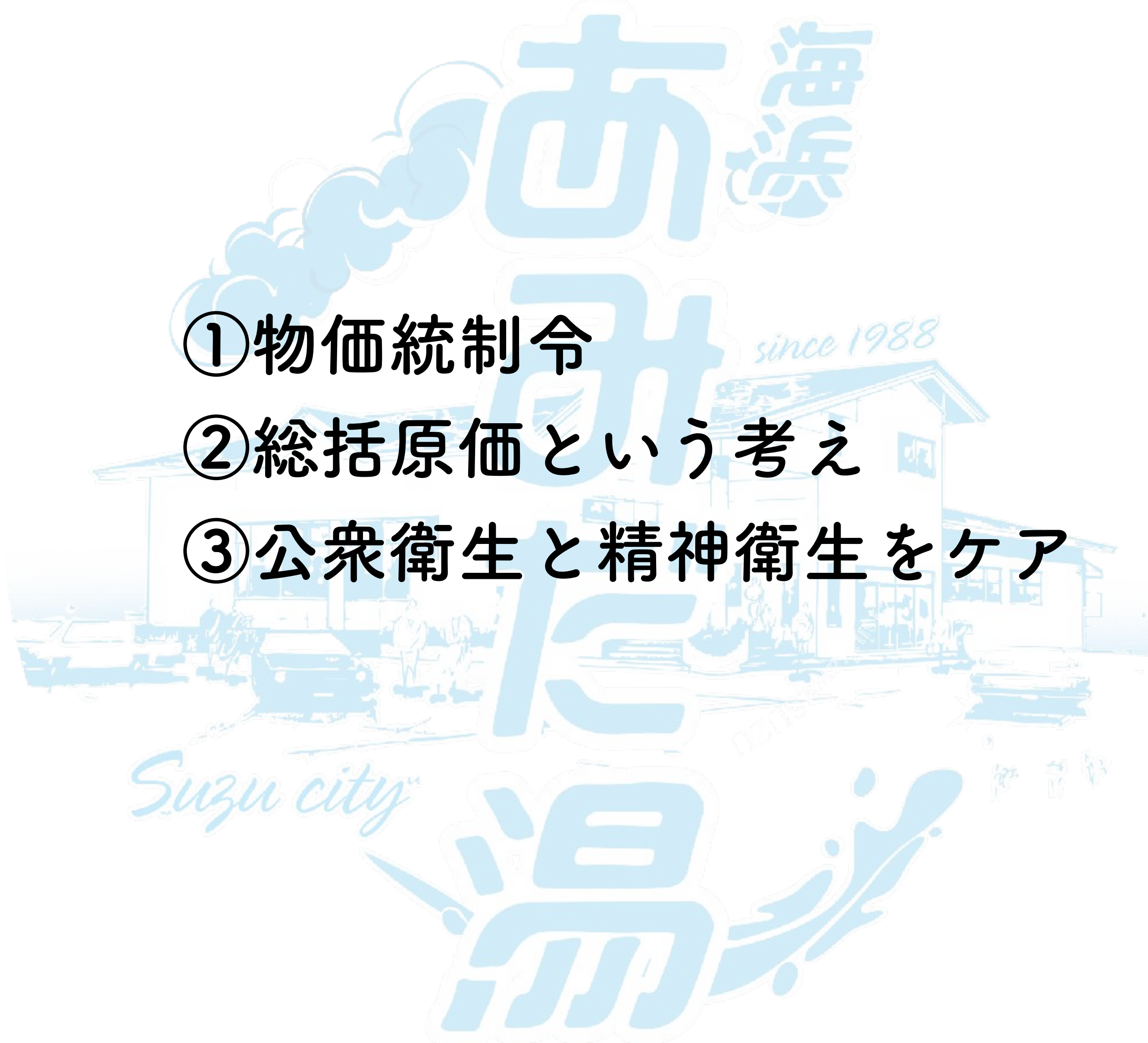
なぜ『労働者協同組合』

- ①責任を分散し、パワーバランスをフラットにできる。
- ②それぞれの関わり方で「労働と対価」をカスタマイズできる
- ③「commons」の意識。賃労働から解放され共有財産として

『労働者協同組合』運営の工夫

- ①中心を作らないスタイル
- ②ベーシックインカム性
- ③個人の特性と裁量を重視

『労働者協同組合』と「銭湯」の相性

- 
- ①物価統制令
 - ②総括原価という考え
 - ③公衆衛生と精神衛生をケア



労働ってなんだろう



人間性の回復、生きている実感。



大きな弧を描いて
循環するために「働きかける」



働いた先の対価は
その先の誰かの未来へ

地域の循環と交換に
身を委ねるため

コミュニティを温める。

ガウソ



2026年9月12日(土)ろうきょうセミナー